

学生生活の手引き



令和5年度
沖縄工業高等専門学校

沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸
作曲 上江洲安彦
編曲 上江洲安彦

Allegretto
♩ = 116

1 ふ か き - みどりの や ん ばる の お か
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23

へ の こ - のうみを み は るかす お か
に ほ ん - のみなみ ちゅ ら し ま の お か
に - そびえし ま な び や に ゆめを - もとめ
に - そびえし ま な び や に たいし - いだき
に - そびえし ま な び や に せか い - めざし
て つど い し われ ら - と も - と - と も に
て つど い し われ ら - と も - と - と も に
て つど い し われ ら - と も - と - と も に
し と と も に ぎじゅ つ の - ち へ い を きりひらくあ
し と と も に みち な る - う な ば ら こぎすすむあ
し と と も に パイ オニアの - こ こ - ろ れんめんとあ
あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け
あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け
あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け

一・深き緑の山原の
丘に聳えし学び舎に
夢を求めて集いし我ら
友とともに、師とともに
技術の地平を切り拓く
ああ、沖縄高専
光り輝け

二・辺野古の海を見晴るかす
丘に聳えし学び舎に
大志抱きて集いし我ら
友とともに、師とともに
未知なる海原漕ぎ進む
ああ、沖縄高専
光り輝け

三・日本の最南、美ら島の
丘に聳えし学び舎に
世界目指して集いし我ら
友とともに、師とともに
パイオニアの精神連綿と
ああ、沖縄高専
光り輝け

校章の由来

沖縄高専の位置する「やんばる（沖縄本島北部）の深き緑」と「青き豊かな海」を表現し、周囲を取り囲む円で「沖縄の青い空」を表している。

学生生活の手引き 目次

沖縄高専について

I 沖縄高専の教育目標、三つの方針	P 1
II 校長から学生諸君へ	P 8
III 高等専門学校とは	P 9
IV 沿革	P 10
V 沖縄高専の組織	
1 組織図	P 11
2 学生に関係する係の事務	P 12
3 各教員、各部署の連絡先	P 13

本科に関する事項

VI 学習に関すること

1 各学科の案内

(1) 機械システム工学科	P 14
(2) 情報通信システム工学科	P 15
(3) メディア情報工学科	P 16
(4) 生物資源工学科	P 17
(5) 総合科学科	P 18
(6) 航空技術者プログラムについて	P 18
(7) 観光・地域共生デザインコースについて	P 19

2 教育課程

(1) 学年制	P 20
(2) 2学期制	P 20
(3) 担任制	P 20
(4) 授業内容	P 20
(5) 単位	P 20
(6) 留学生科目	P 21
(7) 中学校までの授業との違い	P 21

3 試験

(1) 定期試験と中間試験	P 22
(2) 試験の欠席	P 22
(3) 追試験	P 22
(4) 再試験	P 22
(5) 追認試験	P 22
(6) 試験に取り組む姿勢	P 23

4 欠席・欠課・遅刻・早退

(1) 欠席・欠課・遅刻・早退	P 25
(2) 進級の要件	P 25
(3) 公認欠席	P 25
(4) 通学時の突発的な交通渋滞及び公共交通機関の遅延が発生した場合について	P 26

(5) 暴風警報の発令に伴う授業等の取扱い	P 27
(6) 予備日について	P 27
5 成績評価	
(1) 授業科目の評価	P 28
(2) 評価点と評語	P 28
(3) 家庭への通知	P 28
6 学年の修了及び卒業の認定	
(1) 学年修了の認定	P 28
(2) 原級留置	P 28
(3) 卒業の認定	P 28
(4) 試験で不合格点を取っても	P 29
7 休学・復学・退学・転科	
(1) 休学・復学及び退学	P 29
(2) 転科について	P 29
(3) 進路変更は慎重に	P 29
8 特別活動	P 29
9 教育課程表(本科)	P 32

専攻科に関する事項

Ⅶ 専攻科について

1 専攻科の制度と特色	P 97
2 専攻科の理念、目的、技術者像、教育目標、教育方針	
(1) 理念	P 97
(2) 目的	P 97
(3) 育成しようとする技術者像	P 97
(4) 教育目標	P 98
(5) 教育方針	P 98
(6) 教育目標、教育方針に基づいた教育課程の編成方針	P 98
(7) 三つの方針	P 99
3 教育課程	
(1) 履修方法	P 100
(2) 授業内容	P 100
(3) 教育課程	P 100
(4) 単位	P 100
(5) インターンシップ	P 100
4 学士の取得について	P 100
5 試験	
(1) 定期試験	P 102
(2) 試験の欠席	P 102
(3) 追試験	P 102

(4) 再試験	P 102
6 欠席・欠課・遅刻・早退	
(1) 欠席・欠課・遅刻・早退	P 102
(2) 通学時の突発的な交通渋滞及び公共交通機関の遅延が発生した場合について	P 103
(3) 公認欠席	P 103
(4) 暴風警報の発令に伴う授業等の取扱い	P 105
(5) 予備日について	P 105
7 成績評価	
(1) 授業科目の評価	P 106
(2) 評価点と評語	P 106
(3) 家庭への通知	P 106
8 修了認定	P 106
9 休学・復学・退学	P 106
10 教育課程表(専攻科)	P 108

進路に関する事項

IX 卒業、修了後の進路について

1 キャリア教育センターについて	P 112
2 就職について	P 113
3 進学について	P 113

学生生活に関する事項

X 学生生活に関すること

1 学校行事	P 114
2 掲示板・連絡方法	P 114
3 保健室	P 114
4 学生相談・支援室	
(1) 学生相談について	P 115
(2) 学生支援について	P 115
(3) いじめ・ハラスメント防止について	P 115
(4) みんなでつくる相談しやすい環境	P 115
5 学校生活上のきまり・注意点	
(1) 学校生活について	P 116
(2) 服装について	P 116
(3) 礼儀について	P 116
(4) 男女交際について	P 116
(5) 学生証について	P 116
(6) 通学について	P 116
(7) 校舎への入退館について	P 117
(8) 教室及び共同施設を使用するには…	P 117
(9) 施設等の借用について	P 117
(10) 下校時間について	P 117

(11) 飲酒と喫煙	P 118
(12) 校内での飲食	P 118
(13) エレベーターの利用について	P 118
(14) 所持品の管理	P 118
(15) 遺失物・拾得物について	P 119
(16) アルバイトについて	P 119
(17) 学生会について	P 119
(18) 課外活動について	P 120
(19) セクシャル・ハラスメント等の防止について	P 120
(20) 事故防止・災害防止	P 120

6 授業料等の減免及び各種奨学金制度について

(1) 入学料について	P 121
(2) 高等学校等就学支援金について	P 121
(3) 授業料減免(高等教育の修学支援新制度)について	P 121
(4) 寄宿料について	P 122
(5) 奨学金制度について	P 122

7 学生寮について

(1) 学生寮の目的	P 123
(2) 学生寮での生活	P 123
(3) 学生寮を訪問する寮外生への注意	P 123

XI 図書館について

1 図書館の開館時間・休館日	P 124
2 利用可能サービス一覧	P 124
3 貸出・返却	P 125
4 蔵書検索など	P 125
5 注意事項	P 125
6 新型コロナウイルス感染症防止にかかる対応について	P 125
図書館利用における新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大予防ガイドライン	P 126

XII 校内ネットワークと情報処理センターについて

1 校内ネットワーク	P 127
2 情報処理センター	P 127

XIII 諸手続・諸納付金一覧

1 諸手続	P 128
(1) 証明書に関すること	P 128
(2) 学生証に関すること	P 128
(3) 身分の異動に関すること	P 128
(4) 授業・試験に関すること	P 129
(5) 行事への参加、課外活動、印刷物の掲示等に関すること	P 129
(6) その他	P 130
2 諸納付金一覧	P 131

その他

XIV 後援会	P 132
---------	-------

各種規則

XV 規則集

1-1	沖縄工業高等専門学校学則	P 133
1-2	沖縄工業高等専門学校学則（専攻科に関する事項）	P 143
2	沖縄工業高等専門学校学生準則	P 149
3	沖縄工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則	P 156
4	沖縄工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則	P 161
5	沖縄工業高等専門学校追認試験に関する規程	P 163
6	沖縄工業高等専門学校外国人留学生規程	P 165
7	沖縄工業高等専門学校転科生規程	P 167
8	校長が認める海外留学生として派遣される学生の取扱いに関する細則	P 169
9	沖縄工業高等専門学校教務内規（一部抜粋）	P 171
10	沖縄工業高等専門学校特別学修単位認定等内規	P 173
11	沖縄工業高等専門学校航空技術者プログラム修了認定内規	P 175
12	沖縄工業高等専門学校観光・地域共生デザインコース修了認定内規	P 177
13	出欠席等に関する内規	P 181
14	公認欠席に関する申合せ	P 182
15	暴風警報発令に伴う授業の取扱いに関する申合せ	P 183
16	沖縄工業高等専門学校学生表彰規程	P 184
17	沖縄工業高等専門学校学生の懲戒に関する規程	P 187
18	学生の処分及び寮生の寮規則違反点累積処分に関する内規	P 189
19	沖縄工業高等専門学校における部及び同好会活動の朝練習の取扱いについて	P 196
20	定期試験及び中間試験期間に係る部及び同好会の活動の取扱いについて	P 197
21	沖縄工業高等専門学校における休業日の部・同好会活動の取扱いについて	P 198
22	沖縄工業高等専門学校課外活動部室使用内規	P 199
23	沖縄工業高等専門学校体育館トレーニング場の取扱いについて	P 201
24	沖縄工業高等専門学校水泳プール使用要項	P 204
25	沖縄工業高等専門学校学生の車両等使用に関する内規	P 206
26	沖縄工業高等専門学校学生のアルバイトに関する内規	P 211
27	沖縄工業高等専門学校情報セキュリティ利用者規程	P 213
28	沖縄工業高等専門学校情報処理ネットワーク利用規則	P 218
29	沖縄工業高等専門学校図書館利用規程	P 221
30	沖縄工業高等専門学校図書館開館時間に関する申合せ	P 226
31	沖縄工業高等専門学校文献複写規程	P 227

【学校配置図】	P 228
---------	-------

沖縄高専について

I 沖縄高専の教育目標、三つの方針

1 教育目標

本校は、学則第1条において次のように目的を定めています。

「本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

この目的を達成するために、本科の教育目標を次のように定めています。

<本科教育目標>

- (1) 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
- (2) 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
- (3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
- (4) 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

<各学科の人材育成上の目的及び教育目標>

(機械システム工学科)

・人材育成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点で「モノづくり」を支えることのできる実践力の高い技術者を育成する。

・教育目標

1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. 材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力
3. 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
4. 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

(情報通信システム工学科)

・人材育成上の目的

環境と技術の調和および社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を習得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

・教育目標

1. 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
2. コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
3. 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力
4. 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

(メディア情報工学科)

・人材育成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

・教育目標

1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
3. モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
4. 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

(生物資源工学科)

・人材育成上の目的

生物資源の活用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、環境に配慮し、産業界の要請に応えるべく実践的・創造的技術者を育成する。

・教育目標

1. 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
2. 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
3. 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
4. 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

2 三つの方針

本校は、三つの方針（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を次のように定めています。

【本科】

＜アドミッションポリシー＞

本科のディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める。

- (1) 理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
- (2) 責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーション力を磨ける人
- (3) 規則正しい生活と、自発的に勉強のできる人

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の3つの方法で入学選抜を行う。

・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

・学力検査による選抜

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

・帰国生徒特別選抜

本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

＜カリキュラムポリシー＞

本科では以下の科目を配置し、専門的基礎力、コミュニケーション力、倫理観、自己研鑽力を育成する。

- (1) 各専門分野の基礎的な知識を学び、かつそれらを応用する科目：各学科専門科目、総合科学科科目
- (2) 各専門科目の技術を修得する科目：専門学科実験実習科目：卒業研究
- (3) 共同で問題解決にあたりコミュニケーション力を修得する科目：専門学科実験実習科目
- (4) 継続的に学習していく能力を養う科目：卒業研究

＜ディプロマポリシー＞

本科では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する。

- (1) 理工系の基礎的な学力をもとに、各専門分野の基礎的な知識と技術及びそれらを応用することができる。
- (2) コミュニケーション力を身に付けており、他者と協調して課題解決に取り組むことができる。
- (3) 技術者としての倫理観を持ち、専門知識を社会のために役立てることができる。
- (4) 継続的に自己研鑽できる。

【機械システム工学科】

＜アドミッションポリシー＞

機械システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる。

- (1) 機械に興味をもち、機械の動く仕組みや構造を理解したいと思う人
- (2) 機械に関する専門知識と技術を習得し、モノづくりによる社会貢献を志している人
- (3) 機械工学を学ぶ上で必要な数学、理科、英語などの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲がある人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する。

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。

〔本科教育目標：(1)〕〔学科教育目標：1〕

- (2) 機械システムの知識を習得する科目：物理と数学を基礎としたいいわゆる四力学（材料力学、流体力学、機械力学、熱力学）と、これらを基盤とした基礎専門科目、および制御工学に関連する基礎科目（電気電子工学、メカトロニクス工学、制御工学など）〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：1、3、4〕

- (3) 機械システムの技術を修得する科目：実践的な機械システム工学実験、材料加工システム（工作実習）、設計製図実習、プログラミング演習などの実技科目〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2、3、4〕

- (4) 課題解決能力を育成する科目：課題の本質を理解し論理的に解決する能力を育成する卒業研究、クラスの他者と協働して課題を解決しようとする能力を育成する創造演習、正しい倫理観を養う技術者倫理など〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1～4〕

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する。

＜ディプロマポリシー＞

機械システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする機械工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

修得する能力：

- (1) 機械工学分野の知識と技術を活用し、課題解決に向けて行動できる〔本科教育目標：(1)、(2)、(3)〕〔学科教育目標：1～4〕

- (2) 課題の本質を理解し、論理的に思考できる〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：1、3〕

- (3) 他者と協働し、積極的に課題解決に向けて行動できる〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：1～4〕

- (4) 倫理観・責任感を持って課題に取り組むことができる〔本科教育目標：(1)、(4)〕〔学科教育目標：1〕

- (5) 自身の成長のため、自己研鑽できる〔本科教育目標：(3)、(4)〕〔学科教育目標：1～4〕

【情報通信システム工学科】

＜アドミッションポリシー＞

情報通信システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる。

- (1) コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
- (2) 携帯端末などの新しい電子機器や電子工作に興味のある人
- (3) 情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する。

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。

〔本科教育目標：(1)〕〔学科教育目標：1〕

- (2) 工学の基礎としての数学、物理学、電気・電子工学と情報通信工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する科目を配置する。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：1～4〕

- (3) 問題や課題に対して、個人またはグループで自主的、計画的に解決に導き、まとめる能力を身につけるため、実験、演習、実践的科目を体系的に配置する。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1〕

- (4) 論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力と国際的コミュニケーション基礎能力を身につけるため、卒業研究、実験、演習、外国語の科目を配置する。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1〕

- (5) 技術者倫理に関する科目を配置し、グローバルな視点と様々な社会状況に応じた視点から物事を捉えられるよう配慮する。〔本科教育目標：(4)〕〔学科教育目標：1〕

- (6) 実践的・創造的技術者として自立する意識と職業選択を自主的に行える能力を育むよう配慮する。〔本科教育目標：(1)～(4)〕〔学科教育目標：1～4〕

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する。

＜ディプロマポリシー＞

情報通信システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする情報通信システム工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

修得する能力：

- (1) 工学の基礎知識を身につけ、それらを応用することができる。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：1～4〕

- (2) 課題に対し、論理的な思考により、個人またはグループで自主的、計画的に物事を進めて解決に導くことができる。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1〕

- (3) 論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力を身につけ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1〕

- (4) 技術者としての倫理観を体得し、グローバルな視点から多面的に物事を捉えることができる。〔本科教育目標：(4)〕〔学科教育目標：1〕

- (5) 実践的・創造的技術者として自立する意識および職業選択を自主的に行える能力を身につけ、社会と産業の発展に果敢に取り組むことができる。〔本科教育目標：(1)～(4)〕〔学科教育目標：1～4〕

【メディア情報工学科】

＜アドミッションポリシー＞

メディア情報工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる。

- (1) コンピュータの新しい技術に興味を持っている人
- (2) コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人
- (3) コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意している：

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。

〔本科教育目標：(1)〕〔学科教育目標：1〕

- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術に関する専門科目群：プログラミング、アルゴリズムとデータ構造、OS とコンパイラ、デジタル回路、デジタルシステム設計など。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2、3〕

- (3) ネットワーク、および情報セキュリティの基礎技術に関する専門科目群：通信工学、情報セキュリティ、コンピュータネットワークなど。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2、3〕

- (4) データや情報の加工・表現のための基礎技術に関する専門科目群：メディアコンテンツ基礎、コンピュータグラフィックスなど。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2、3、4〕

- (5) 課題解決、知識・理論・アルゴリズムの応用などの総合的能力を育成するための科目群：各種実験、卒業研究など。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1～4〕

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果によりで評価し、60 点以上で単位を認定する。

＜ディプロマポリシー＞

メディア情報工学科では、数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

修得する能力：

- (1) 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的な思考ができる。〔本科教育目標：(1)〕〔学科教育目標：1、4〕

- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用することができる。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2、3〕

- (3) モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用することができる。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2、3〕

- (4) 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：1、4〕

- (5) 課題解決能力、知識・理論の応用力などの総合的能力を社会に役立てることができる。〔本科教育目標：(1)、(2)、(3)〕〔学科教育目標：1～4〕

【生物資源工学科】

＜アドミッションポリシー＞

生物資源工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる。

- (1) 生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
- (2) 自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人
- (3) バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している。

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。

〔本科教育目標：(1)〕〔学科教育目標：1〕

- (2) 生物工学の基礎科目：情報技術の基礎、基礎科学、応用物理、応用数学、基礎プログラミング、情報技術の応用、有機化学・物理化学、生物分析化学、生物有機化学、生化学、遺伝子工学、生物工学、微生物学、発酵学、環境学、環境分析学、生物資源利用学Ⅰ、生理学、食品プロセス工学、食品製造学、化学資格基礎、分子生物学、細胞工学、環境保全学、植物生理学、資源リサイクル学、生物資源利用学Ⅱ、タンパク質工学、産業化学など〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2～4〕

- (3) 技術習得に関する科目：実践的な生化学実験、遺伝子工学実験、生物工学実験、微生物学実験、環境学実験、生理学実験、化学および化学実験法など〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2～4〕

- (4) 課題解決能力・コミュニケーション力育成科目：沖縄高専セミナー、創造演習、インターンシップ、産業創造セミナー、バイオテクノロジー基礎実験、創造研究、卒業研究など〔本科教育目標：(1)～(4)〕〔学科教育目標：1～4〕

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては、レポート、発表、報告書等で評価し、60点以上で単位を認定する。

＜ディプロマポリシー＞

生物資源工学科では、生物資源工学科に所定の期間在学して、設定された単位を習得し、かつ以下の能力を身に付けた者に卒業を認定する。

修得する能力：

- (1) 亜熱帯域の生物資源に対する生物化学、食品化学、環境学および微生物学に関する基礎および専門知識を備え、生物資源を創造的で実践的な研究開発につなげることができる。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：1～4〕
- (2) アジア圏における地理的条件を活かして国際交流をはかり、お互いの考えを理解し、共有するためのコミュニケーション力を備え、解決すべき課題にチームワークで取り組むことができる。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1〕
- (3) 習得した専門知識を活かして必要な情報を収集し、それらを組み合わせて考え、効率良く仕事を進めることができる。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：3、4〕
- (4) 困難に遭遇した際に、現状の把握と解決するための問題点は何か、またどのような助力が必要かを明確にして、論理的に説明することができる。〔本科教育目標：(2)、(3)、(4)〕〔学科教育目標：1〕
- (5) 技術力と国際性を備えた技術者として、バイオ、化学、環境、食品、化粧品および医薬系産業分野の社会ニーズに応えることができる。〔本科教育目標：(2)、(3)、(4)〕〔学科教育目標：3、4〕

Ⅱ 校長から学生諸君へ

皆さんは、将来、技術者になる道を選び、本校に入学しました。

5年間の一貫した技術者教育を通して、基礎的知識と社会人として必要な教養を身に付けるとともに各分野の専門的知識と技術を学び、寮生活やさまざまな活動を通して自己を確立していく、言わば個々人の人生において大変重要な時期を本校で過ごしています。

二度とない学生生活であり、5年ないし7年間という限られた時間です。自ら積極的に行動し、失敗を恐れず、果敢に挑戦してください。努力を惜しまず、自分の可能性を切り拓いていってください。

技術者は先進的技術に対応できるように、あるいは既にある技術を応用し新しい技術を生み出すために、常に技術者自身が学び、専門的知識と技能を磨いていかなければなりません。開発の途上で失敗をしても、苦しいときにも、あせらず、諦めずに、努力を続けること。是非、この姿勢を生涯にわたって忘れないようにしてください。

また学校生活においては、多くの人との出会いがあります。留学生との交流や海外研修、国際会議への参加など、国際的な交流の機会もあります。物事の見方や考え方の違い、文化や価値観の多様性に触れ、教科書では学ぶことのできない知識や経験が得られることと思います。またそこには、言葉や考え方の違いを超えてなお育まれる、大切なものがあることにも気づくと思います。

現代社会は科学技術の発展による恩恵を受ける一方で、自然環境の破壊や食糧・エネルギー問題など、国境を越えて世界中の人と一緒に取り組んでいかなければならない、多くの問題を抱えています。言葉や歴史、文化を学び、今、世の中で何が起きているのか、世界を広く、物事を深く、見極める目と心を養い、自分が社会人として、あるいは技術者としてどう関わっていけるか、具体的に考えられるようにしましょう。

技術者の仕事は、豊かな未来を託された夢のある仕事です。他者と協働し、新しい時代を切り拓く、まさに開拓者たる技術者に成長してほしいと願っています。

さて、この『学生生活の手引き』には、学習や進路に関すること、各種手続きに関する事など学生生活を送るうえで大変重要なことが書かれています。しっかり読んで、大切に保管してください。

また、何か心配なことがあれば、担任の先生や身近なひとに相談しましょう。思い煩ったり、迷ったり、不安に思うことは誰しもあります。どんな年代のひとにも、大人にもあります。しかし、そこから逃げずにひとつひとつ解決していくなかで、人は一生をかけて、少しずつ成長していけるのだと思います。

皆さん一人ひとりに、すばらしい個性と無限の可能性があります。どうか自分を大切に、そして同じように共に学ぶ仲間を大切に、力を合わせて、皆が輝けるような沖縄高専を創っていきましょう。

Ⅲ 高等専門学校とは

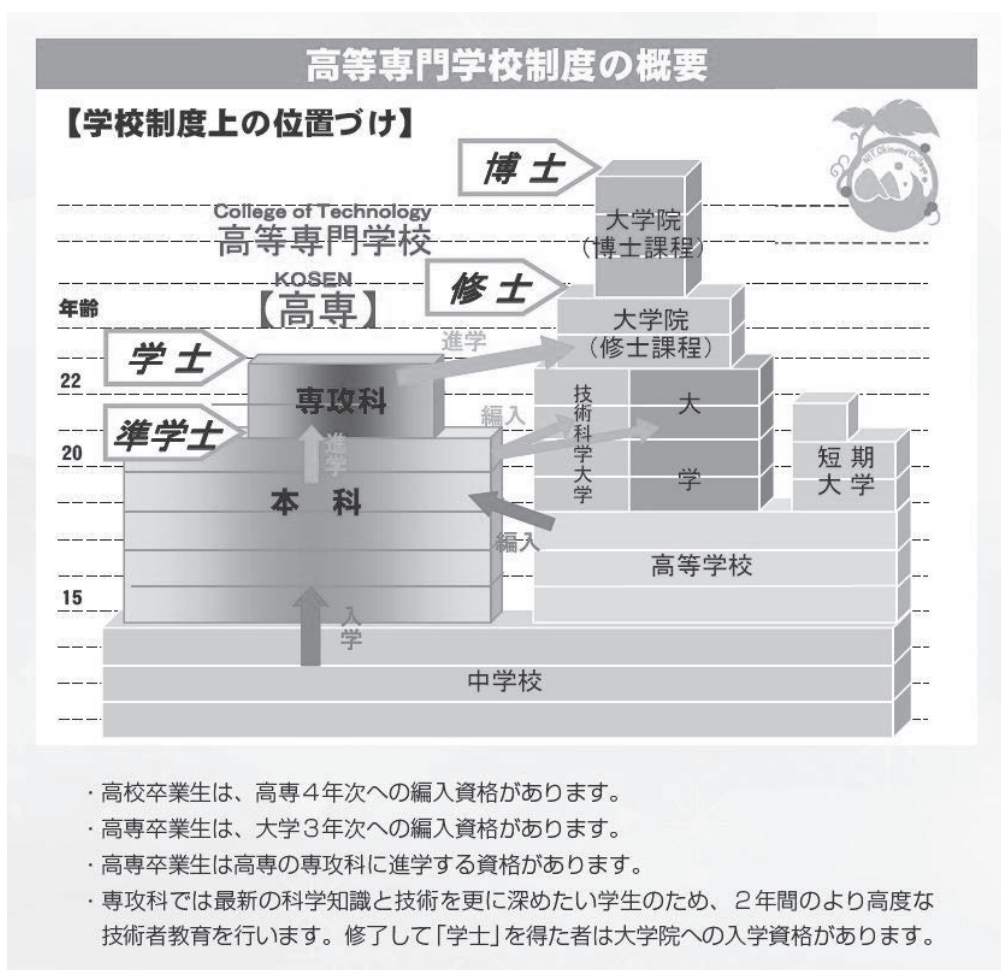
昭和 30 年（1955 年）頃から日本は飛躍的な高度成長期に入り、昭和 30 年代前半には、経済構造の転換に伴う技術革新に対応するため、科学技術の振興が広く叫ばれていました。これに呼応して、教育界や産業界など多くの分野から、高等学校と短期大学を合わせた 5 年制の専門技術者養成のための教育機関設置の要望が強く出されました。こうして、昭和 36 年 4 月の国会で「学校教育法の一部を改正する法律案」が通過し、これに基づいて、昭和 37 年 4 月 1 日、高等専門学校が正式に誕生しました。その目的は、学校教育法により『深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること』と定められています。すなわち、高等専門学校は、社会の要求に応じたものであり、職業に直接役立つ実践的技術力を備えた、優秀な技術者養成のための専門教育を施す高等教育機関としての役割を持っています。

現在、国内の高等専門学校は国立で 51 校、55 キャンパス、公私立を含めると 57 校をかぞえ、学生の入学定員は 1 万人を超えています。創設以来高い就職率を維持し、近年では時代の変化に対応して、大学への編入、専攻科の設置、分野の拡大など、柔軟な制度に改善が図られてきています。

今日、この高等専門学校制度に対しては、社会的認識の改善や教育の在り方などにいろいろな評価はあるにしても、大学とは異なる高等教育機関として、これまで我が国の社会、とりわけ経済・産業の発展に有効に機能しています。

本校においても、『5年間の一貫した教育により、豊かな教養と高度の専門技術を身につけた技術者を育成することを目的とし、教科の学習やクラブ活動等による充実した学生生活を通して豊かな人間性を養い、視野の広い、心身ともに健康で正しい判断力と創造性に富む技術者の養成』を目標に教育が行われています。

高等専門学校を卒業すると、「準学士」の称号が与えられます。また、卒業後の進路は、企業や官公庁等への就職、大学3年次への編入学、専攻科への進学と多岐にわたっています。



Ⅳ 沿革

[平成14年]

- 10月 1日 沖縄工業高等専門学校開学（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）
初代校長に糸村昌祐が就任

[平成16年]

- 4月10日 第1回入学式（第1期生受入）
4月21日 沖縄工業高等専門学校産学連携協力会を発足
10月31日 沖縄工業高等専門学校後援会設立総会開催

[平成21年]

- 3月21日 第1回卒業式（第1期生卒業）
4月 1日 沖縄工業高等専門学校専攻科（創造システム工学専攻）を設置
4コース（機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コース）で構成
4月 4日 第6回入学式（第6期生受入）
第1回専攻科入学式（第1期生受入）

[平成22年]

- 4月 1日 第2代校長に伊東繁が就任

[平成24年]

- 4月27日 日本技術者教育認定機構によるJABEE技術者教育プログラム認定

[平成25年]

- 4月 3日 第10回入学式（第10期生受入）
第5回専攻科入学式（第5期生受入）
9月21日 創立10周年記念式典・講演会・祝賀会

[平成27年]

- 4月 1日 第3代校長に安藤安則が就任
4月 1日 航空技術者プログラム設置

[令和 2年]

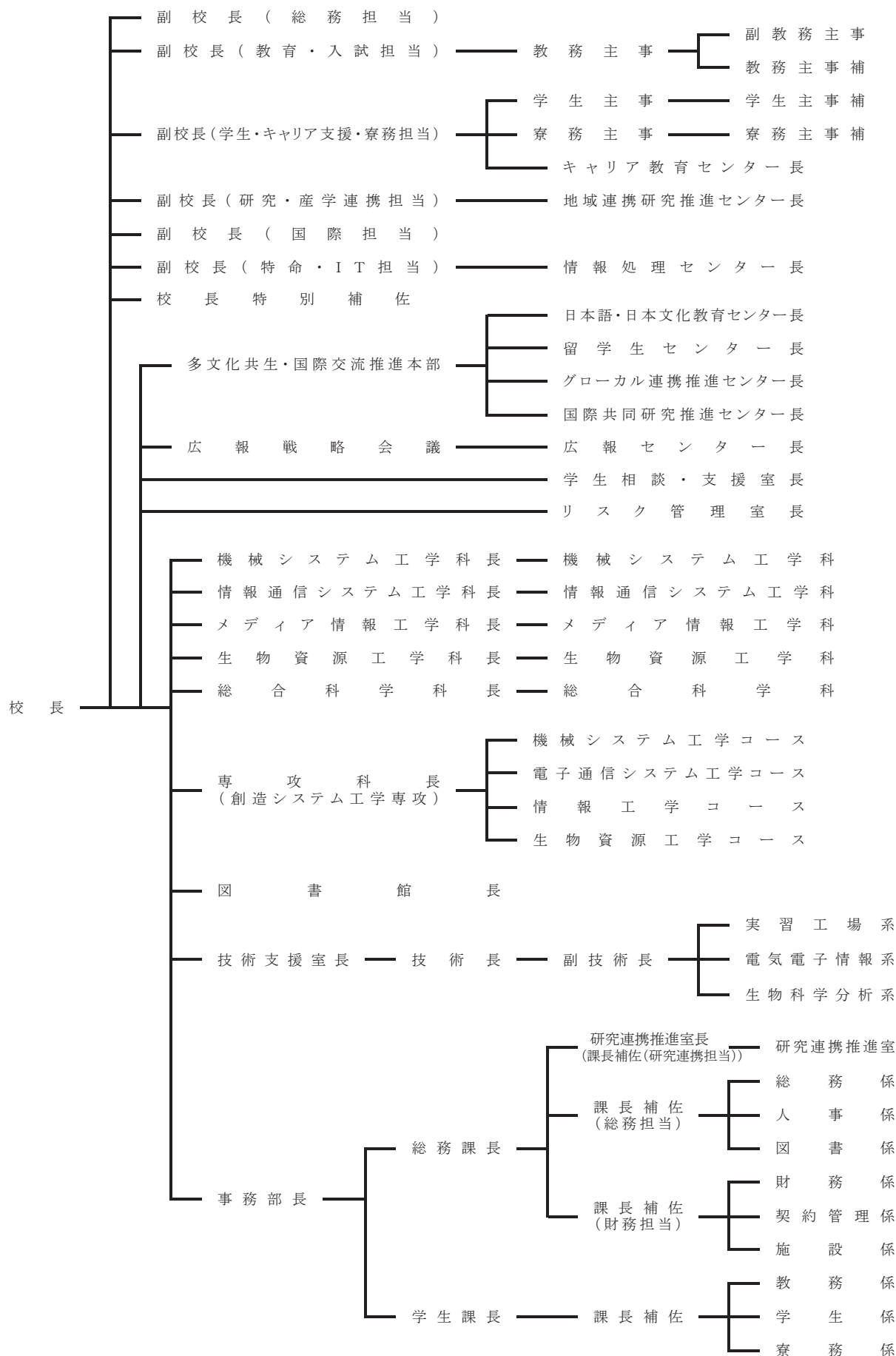
- 4月 1日 第4代校長に伊原博隆が就任

[令和 4年]

- 4月 1日 第5代校長に佐藤貴哉が就任

V 沖縄高専の組織

1 組織図



2 学生に係る事務

教務係	学生証に関する事
	証明書（在学、成績）に関する事
	授業に関する事
	試験・成績に関する事
	入学、退学、休学、復学、転学及び除籍に関する事
	欠席、欠課、遅刻、早退、公認欠席及び忌引等の手続きに関する事
	教科書及び教材に関する事
	大学編入学に関する事
	航空技術者プログラムに関する事
	教室（講義室）に関する事
	身上異動や住所変更に関する事
	保護者等の変更や住所変更に関する事
	国費・私費留学生の受入に関する事
	海外留学派遣に関する事
学生係	入学料の減免及び猶予、授業料の減免・分納及び猶予に関する事
	奨学金に関する事
	課外活動、学生団体の行事参加等に関する事
	学生の表彰及び懲戒に関する事
	学生のアルバイトに関する事
	車両通学及び旅客運賃割引証に関する事
	校外実習（インターンシップ）に関する事
	キャリア教育、進学・就職に関する事
保健室	学生の保健管理に関する事
	学生の相談に関する事
	健康診断証明証の発行
	独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度に関する事
寮務係	学生の入退寮に関する事
	寮生の生活相談、保健衛生、給食・栄養管理に関する事
	寄宿料の免除に関する事
	在寮証明書、別居監護申立書に関する事
	国費・私費留学生の受入および生活面に関する事
	留学生相談員の委嘱に関する事
図書係	図書資料の閲覧・利用・貸出に関する事
	情報検索案内及び図書の利用・検索法等の相談に関する事
	図書資料の複写及び相互貸借等、他館との相互利用に関する事

3 各教員、各部署の連絡先

※外部・携帯から電話するときは、0980(55)内線番号 とダイヤルしてください。

※電子メールを送るときは、ID@okinawa-ct.ac.jp のIDを下記のとおりに置き換えてください。

学科等	氏名	居室	内線	ID	学科等	氏名	居室	内線	ID
校長	佐藤 貴哉	校長室			総合科学	小池 寿俊	4-4	4236	koike
機械システム	武村 史朗	1-16	4137	takemura		成田 誠	4-11	4201	narita
	比嘉 吉一	2-15	4118	y.higa		星野 恵里子	4-17	4230	hoshino
	眞喜志 治	3-18	4119	omakis		山本 寛	4-6	4239	yamamoto
	眞喜志 隆	2-16	4112	tmakishi		青木 久美	4-18	4231	aoki
	山城 光	1-18	4139	hyama		木村 和雄	4-8	4245	kimura
	安里 健太郎	3-17	4116	k_asato		澤井 万七美	4-1	4241	sawai
	下嶋 賢	2-14	4122	k_shimo		下郡 剛	4-9	4244	takeshi
	津村 卓也	2-18	4114	tsumura		吉居 啓輔	4-5	4237	kyoshii
	森澤 征一郎	3-15	4110	morizawa		和多野 大	1-9	4246	watano
	赤嶺 宗子					カーマン マコア クイオカラニ	4-16	4234	makoac
情報通信システム	神里 志穂子	3-1	4145	kamisato		片山 鮎子	4-2	4063	ayuko.k
	金城 伊智子	3-3	4141	ichi		崎原 正志	4-13	4247	mashi_s
	高良 秀彦	1-5	4147	h.takara		島尻 真理子	1-3	4242	shimari5
	谷藤 正一	1-4	4140	tanifuji		山内 祥之	4-14	4235	yamauc-y
	山田 親稔	2-4	4149	cyamada		吉井 りさ	4-15	4233	ryoshii
	中平 勝也	1-6	4171	nakahira		藤本 教寛	3-7		
	宮城 桂	2-2	4146	k.miyagi		部署名		内線	ID
	亀濱 博紀	2-3	4143	hkame	技術支援室	実習工場系		4131	
						電気電子情報系		4042	
メディア情報	伊波 靖	2-7	4178	yasuc		生物科学分析系		4043	
	玉城 龍洋	2-6	4173	t.tamaki					
	タンスリヤボン スリヨン	1-8	4180	suriyon	事務部	総務課	研究連携推進室	4070	skrenkei
	與那嶺 尚弘	4-10	4203	yonamine			総務係	4003	ssoumu
	佐藤 尚	3-5	4179	stakashi			人事係	4006	sjinji
	金城 篤史	3-6	4170	akinjo			図書係	4037	stosyo
	當間 栄作	3-8	4175	tohma			財務係	4014	szaimu
生物資源	池松 真也	2-11	4200	ikematsu			契約管理係	4020	skkanri
	伊東 昌章	2-13	4211	ma-itou			施設係	4023	ssisetu
	濱田 泰輔	3-13	4202	hamada		学生課	教務係	4028	gkyoumu
	平良 淳誠	1-11	4207	taira			学生係	4032	ggakusei
	田中 博	1-10	4212	h.tanaka			寮務係	4039	gryoumu
	玉城 康智	3-12	4210	tamaki			保健室	4054	hoken
	沖田 紀子	2-17	4113	okita.n			学生寮	4273	
	磯村 尚子	1-14	4204	iso	学生相談・支援室(相談受付窓口)		4054		
	三宮 一幸	1-12	4206	sanmiya					
	嶽本 あゆみ	1-13	4208	tkmt					
	田邊 俊朗	2-10	4209	tanabe					
	萩野 航	2-12	4205	hagino					

本科に関する事項

VI 学習に関すること

1 各学科の案内

(1) 機械システム工学科

① 学科の概要と活躍できる分野

機械工学はあらゆる産業の基盤技術であり、その知識・技術は、現代の社会には欠かすことのできない重要な学問分野です。現代の産業社会で機械工学が扱う分野は、電子顕微鏡でしか観察できないようなナノ領域や微細なコンピュータ部品から、全長数百メートルに及ぶ巨大構造物まで産業界全体に広がっており、機械工学技術者には幅広い知識と深い専門性が要求されています。

本学科の卒業生が活躍できる産業分野は、製造業の中でも、自動車産業のような機械産業、航空・宇宙産業、電力・エネルギー産業、官公庁、さらに電気・電子・情報産業など多方面に及び、その中で担う仕事は機械製品の研究・開発、設計、生産、管理技術者です。（下図参照）

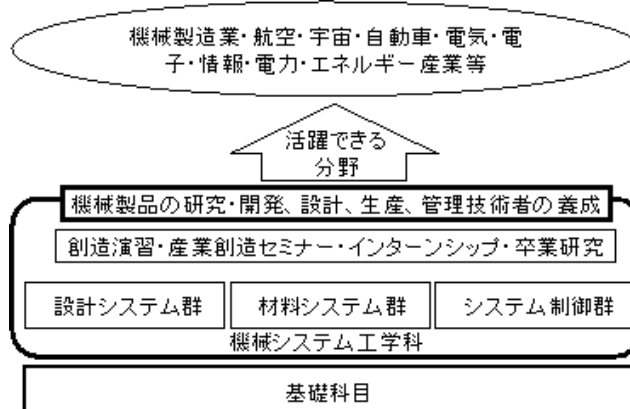
② 育成する人材像と学習内容

本学科では、材料・加工・機構・強度・熱流体などの機械の要素工学を基盤とし、さらに、システム制御・生産管理技術など「モノ」の設計・生産・開発・創造に必要な知識・技術を統合した教育を行い、創造的に「モノ」づくりができ、生産システム全般も担当できる実践的技術者の育成を目指しています。

本学科での学習内容は、これらの専門知識を体系的に学習することができるように、三つの大きな柱からなる専門科目群で構成しています。

- I. 材料システム群：材料と加工の基礎から最先端まで学ぶ分野
- II. 設計システム群：機械の原理からコンピュータを用いた先端設計法まで学ぶ分野
- III. システム制御群：電気・電子回路から高度なシステム制御まで学ぶ分野

右の図が機械システム工学科の概念図です。基礎科目を経て、三つの専門科目群・それらを総合した学習を行い、機械工学技術者を育成します。



③ 学習にあたっての注意点

それぞれの専門科目は、講義だけではなく演習・実験・実習を重視することで、モノづくりのための創造性・自主学習能力・コミュニケーション能力・チームワーク能力の育成・向上を図ります。特に、自分でアイディアを出し、行動し、結果を吟味する自主学習能力に重点を置いた講義を行いますので、新しいことに挑戦する気持ちを大切にしてください。

これらの専門科目を学習する上での重要な基礎科目は、数学・物理・英語になります。高専では、高校レベルの内容から、大学の初歩レベルまでを学び、その知識を基に、専門でより高度な内容に進んでいきます。1・2年次で、これらの基礎科目につまずくと、高学年での学習についていけなくなります。基礎科目の学習には十分注意してください。

機械システム工学科の学修内容は、モノづくりの基礎を学ぶため極めて広い範囲にわたり、かなり大変と思います。本学科に入学した想いを忘れずに着実に学習を進めてください。

(2) 情報通信システム工学科 — I C T分野で世界的に活躍できる人材を育成—

インターネットやスマートフォンなどの携帯端末も浸透した現在、携帯端末では相手の顔を見ながら通話することはもちろんのことインターネットやSNS、GPSナビゲーションや動画のオンデマンド再生も可能となりました。これにともない、情報化社会を支えるICT基盤技術として、電気電子工学・通信工学・ソフトウェア工学などの情報通信技術が益々重要となります。また、欧米のみならずアジア諸国においても情報通信産業の発展はめざましく、学生の皆さんが活躍できる情報通信産業への就職を考える際、世界動向もきちんと見据える必要があります。

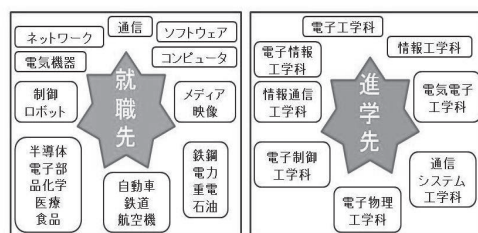
このような状況を踏まえ、本学科では情報通信分野（通信、ネットワーク、集積回路、情報処理、制御、航空など）におけるハードウェア・ソフトウェアに精通した実践的かつ創造的技術者の育成を教育目的としています。

本学科では情報化社会を支えている様々な技術について学びます。具体的には、コンピュータを構成する集積回路などのハードウェア、コンピュータの動作や機器制御のためのソフトウェア開発のためのプログラミングについて学びます。また光・無線・移動体通信に代表されるような通信・ネットワーク関連技術についても学びます。これらはコンピュータだけではなく、身の回りの電子製品、電化製品、情報機器の主要な技術であり、人々の生活を豊かにするとともに、これらを組み合わせることにより、各種機器への応用やロボット制御などのシステム構築も可能となります。

本校を卒業した学生が国内にとどまらず、海外も含めた多くの分野で活躍できるハードウェア・ソフトウェアに精通した創造的実践的技術者となることを期待しています。

- 情報通信システム工学科 1～3 年：
コンピュータの仕組み、プログラミング、電気回路、電子回路、電磁気などの基礎技術
- 情報通信システム工学科 4～5 年および専攻科：
集積回路、通信・ネットワーク、アプリケーションソフトウェア、制御などの応用技術
- 情報通信システム工学科 全学年
エンジニアリングデザイン、プレゼンテーションスキル、チームワーク力

情報通信システム工学科の就職・進学分野 (さまざまな分野に進むことができます！)



情報通信システム工学科

情報通信分野(コンピュータ、情報処理、ネットワーク、通信、集積回路など)における実践的創造的技術者の育成
(ハードウェア・ソフトウェアに精通した技術者)



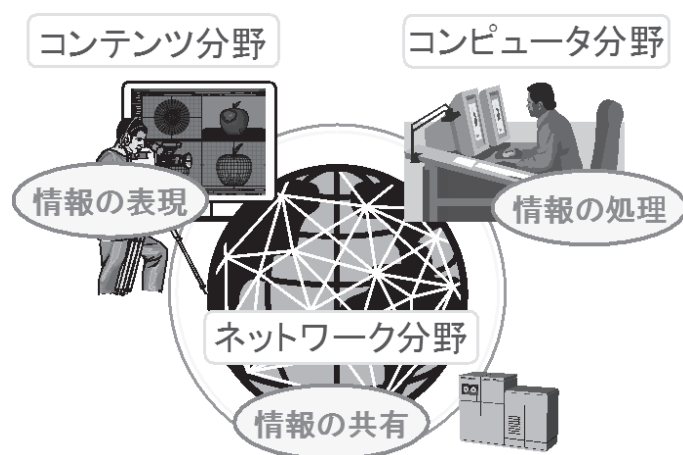
(3) メディア情報工学科

物質、エネルギーと並んで、情報は人間活動にとって最も大切な要素のひとつです。私達は情報を音声、文字、画像など色々なメディア（媒体）で表現して人に伝えています。情報処理技術の驚異的な発展と普及のおかげで、情報のデジタル処理が可能となり、異なるメディア情報を統合的に扱うマルチメディアが現実のものとなっています。一方、モバイル通信技術と光通信技術の急速な発展に支えられ、人間社会のあらゆる場所で情報の伝達・共有が可能なネットワークが形成されつつあります。本学科では、コンピュータとプログラミングに関する知識を基礎とし、IT産業で活躍できる技術者の育成を目指しています。

<学習分野>

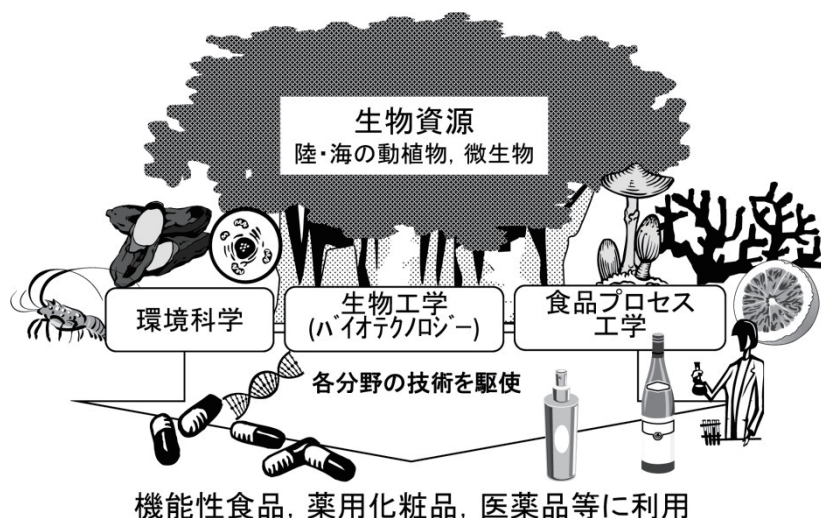
本学科の教育内容は次の3つの分野に分類されます。

- I コンピュータ分野：アルゴリズム、データ構造、プログラミング、並びに、コンピュータの構成や動作原理などマルチメディア情報を処理するコンピュータシステムに関する教育。
- II コンテンツ分野：情報を音声、画像、コンピュータグラフィックスなど種々のメディアで表現し、コンピュータを用いてデジタル加工するコンテンツ制作に関する教育。
- III ネットワーク分野：ネットワークの構築および運用技術、並びに、情報セキュリティに関する教育。



(4) 生物資源工学科

沖縄県には亜熱帯地域に特有の生物資源があり、機能性食品や薬用化粧品、医薬品への活用が期待されます。生物資源工学科は、亜熱帯に棲息する動植物や微生物などが生産する有用物質の活用ができるように化学、生物学、生物化学の基礎科目、並びに微生物学や遺伝子工学に関連したバイオテクノロジーや食品プロセス工学などの製造技術を学びます。また、環境に大切な陸海の生態系を学び、環境保全の指標物質や生物に関する環境科学を実験・実習を取り入れて幅広く学びます。生物資源工学科では卒業後に食品、化粧品、医薬品などの製造分野や環境分野で活躍できる専門技術者の育成を目指します。



<学習分野>

生物資源工学科の目標である生物資源を活用できる人材育成のために、授業は①生物化学工学群②環境・微生物学群③食品化学工学群の3つの専門分野と関連科目から構成しています。また、専門分野に導入のための基礎科目が開設されています。

専門分野

- ①生物化学工学群：生物有機化学、生化学、生物分析化学などの授業科目では、生命科学の基礎となる化学や生物学を学びます。また、遺伝子工学、分子生物学、生物工学、細胞工学などの授業科目では、バイオテクノロジーの基礎知識や考え方を学び、実験や実習で技術の習得をします。
- ②環境・微生物学群：環境について生態系の基礎から環境科学全般を、環境学、環境分析学、環境保全学、資源リサイクル学などの開設科目で学習します。また、微生物については、微生物によるチーズや酒類の発酵食品の製造法や機能性食品や医薬品になる有用物質をつくり出す微生物の基礎的な取り扱いから応用技術まで、微生物学や発酵学などの授業科目で学習します。
- ③食品化学工学群：食品や化粧品原料などの製品開発、製造工学、品質管理などの工業的な技術を学習します。また生物資源利用学Ⅰ、Ⅱや生理学などでは食品成分の機能性や食品が体に与える影響を学習します。

基礎科目

基礎科目には応用数学や応用物理の基礎分野科目、バイオテクノロジー基礎実験などの専門基礎科目分野、コンピュータ利用技術を学ぶための基礎プログラミングに関する科目が開設されています。

(5) 総合科学科

沖縄高専の授業科目は専門科目と一般科目に分けられますが、総合科学科は、主に一般科目を担当する教員の組織です。総合科学科では、5 年一貫の教育課程の中で一般科目を通して社会人として必要な知識や幅広い教養を身につけるための学習を行います。また、専門科目と緊密に連携し、社会の急速な変化に対応できる技術者として各学科に共通な学問の基礎を養います。そのため、高校と大学間に見られるような授業内容の重複を避け、5 年間を通しての効果的なカリキュラムを編成します。

<学習分野>

国語：文学的文章や科学技術文章などを論理的に分析し、自らの考えを表現できる力を養うとともに、国際的に活躍する技術者に必要なコミュニケーション能力を育成します。

英語：昨今のグローバル化を念頭に置き、各自の専門分野に関する情報について、英語で理解しやり取りができる、基礎的な運用能力を身につけた技術者や研究者の養成するために、英語四技能をバランスよく育成します。

社会科学：歴史学では、現代とは異なる思想・価値観を理解することで、多面的なものの見方や考え方ができるようにするとともに、現代と異なる形態の国家・社会・宗教等を学ぶことで、現代社会を相対的に把握する能力を養います。地理学では、現代社会を空間的・構造的に理解することを通じて、各自のライフコースに地域選択・社会参加のイメージを醸成します。

数学：専門科目や理系科目の基礎となる数学の授業は、理論のみを追求するだけでなく、基礎理論を工学的に発展させることのできる応用力も育成します。さらに、3 年までには大学初年程度の内容を履修します。

自然科学：理工学分野の基礎となる物理では、自然現象を支配する物理法則を講義・演習・実験を通して学びます。地球科学では、地球を構成する物質や、地表付近で進行している自然現象について、講義や身近な事物の観察を通じて学びます。

健康科学：スポーツ実技と健康科学から成り、様々なスポーツの実践方法やトレーニング方法の基礎、生活習慣病の予防、健康増進、公衆衛生学に関する教育を行います。

(6) 航空技術者プログラムについて

航空関連産業は多くの先端技術が結集した産業領域であり、官民を挙げて自動車に次ぐ基幹産業への期待も高まっています。沖縄県は、島嶼地域の地理的環境にあつて、県の 21 世紀ビジョンに航空関連産業クラスター形成を掲げ、国内外とのゲートウェイ機能を担う那覇空港に航空機整備事業を新たに誘致し、第二滑走路の供用開始と併せて、航空関連分野が新たなリーディング産業として期待されています。このような背景を踏まえ、今後、沖縄高専として地域振興に貢献していくことも含めて航空産業に人材を輩出していくことが高等教育機関としての役割の一つと考え、平成 27 年度より航空技術者プログラムを設置することとなりました。

本プログラムは、学科を問わず 2 年生から受講することができます。2・3 年次では、航空機に関する基礎や沖縄県の航空事業や観光産業などの導入教育を第一線で活躍する担当者や本校の卒業生を講師として講義を実施し、4・5 年次においては、ANA からの出向の常勤講師による専門的な講義や、航空関連産業の現場でのインターンシップ実習を行っています。さらに、JTA の整備士およびその退職者を非常勤講師として、整備の基礎実習を行います。本科の 4 年間で「航空整備士」および「エンジニア」としての必要な基礎知識・技能を習得し、航空産業の技術者として中心的役割を担う人材を育成していきます。

詳しくは本校 Web サイト内の「航空技術者プログラム」ページをご覧ください。

(沖縄高専 Web サイト URL : <https://www.okinawa-ct.ac.jp/>)

(7) 観光・地域共生デザインコースについて

沖縄県内の産業は、その8割が観光・商業・情報通信業からなる第3次産業です。近年、多くの業種を含む観光産業界からは、情報通信技術の素養を持ち、文理融合的な発想からイノベーションを構築できる人材が強く求められるようになってきました。一方で、2021年7月、沖縄島北部は世界自然遺産となり、その生物多様性の高さと絶滅危惧種や固有種の多さから「世界的にかけがえのない地域」とされています。このような豊かな自然環境を保護しつつ産業振興を図るには、高い技術力だけではなく、地域と共生する方策をデザインできる人材が必要となってきます。このような背景を踏まえ、観光やそれを支える情報通信分野および商業分野などに人財を輩出する為に、令和5年度より観光・地域共生デザインコースを設置することとなりました。

本コースは、学科を問わず1年生から受講できます。1年生では、アントレプレナーシップ（起業家精神）の導入教育を受講し、また、地域と共生する基礎技術や基礎知識を学びます。2年生から3年生では、情報通信技術の知識やプログラミング技術を高めます。4年生では観光業や情報通信業などの現場でインターンシップを実施し、実務を実習します。さらに5年生では経済学・経営学・統計学などを学び、それらを起業の視点でどのようにデジタル広報へ活かすか、といった文理融合的な演習を行います。

詳しくは、本校 Web サイト内「観光・地域共生デザインコース」をご覧ください。

(URL: https://www.okinawa-ct.ac.jp/campus_life/kyousei/)

2 教育課程

高等専門学校における教育の特色は、5 年間の一貫教育により、高等学校と大学との間に見られるような教育内容の重複を避け、一般科目と専門科目を効率よく学習できるように配分しているところにあります。低学年では国語、数学、英語などの一般科目が多く、高学年は実験・実習を中心とした専門科目が多くなるように編成されています。また、本校では第 4 学年まで全学共通専門科目が設けられていることが大きな特色といえます。

学生は、各学年に配当された科目を履修し、その学年、学科で指定された単位数を修得しなければなりません。履修に当たっては、以下の事項を十分理解し、毎日の予習、復習をする習慣を身につけてください。

(1) 学年制

高専では、大学の単位制とは違って学年制をとっています。高専の授業内容は学年進行に伴って段階的に進むように配慮がなされているため、その学年で履修すべき科目のうち一定以上の科目に合格しなくては上の学年への進級ができません。

(2) 2 学期制

授業が行われる時期は、前学期・後学期に分かれています。

(3) 担任制

本校では、第 1 学年及び第 2 学年は混合学級、第 3 学年以上は学科別でクラスを編成しています。

そのため、**第 1 学年から第 2 学年では学級担任、副担任及び学科担任**が配置され、**第 3 学年以上は学科担任**が配置されています。以下の項目では、学級担任及び学科担任のことを**担任**といいます。

(4) 授業内容

毎年シラバスを作成し、本校 Web サイト（高専 Web シラバス）上に掲載します。

シラバスとは各授業担当教員が授業内容、授業スケジュール等を分かりやすく、詳しく説明しているもので、日頃の予習・復習やテスト勉強に活用することができます。

(5) 単位

授業科目の単位には、「履修単位」と「学修単位」があります。「学修単位」は大学における単位の考え方にに基づき、本科 4 年生以上が履修する科目に導入されています。

【履修単位】

授業科目（履修単位）の単位数は、30 単位時間（1 単位時間 45 分）の授業を 1 単位とします。ただし、本校では 90 分の授業（2 単位時間）を基本とし、原則 1 日 4 時限まで行います。つまり、90 分間の授業を週 1 回、半期（15 週）だけ行えば 1 単位、週 2 回、半期（15 週）行えば 2 単位になります。

【学修単位】

授業科目（学修単位）の単位数は、45 時間の学修をもって 1 単位とします。授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、講義及び演習については、15 時間から 30 時間の範囲で、実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で定めた授業時間をもって 1 単位とします。

つまり、授業に出席することに加え、授業時間の 2 倍以上の時間を自学自習に費やすことで、1 単位を満たす学修を行ったことになります。単位を取得するためには、学期末の成績である**評価点が 100 点満点で 60 点以上なければいけません。**

評価点とは、授業科目における定期試験・中間試験、小テスト、レポート等の成績を合わせて

算出された最終的な成績のことです。

卒業するまでには、沖縄工業高等専門学校規則別表第3「卒業に必要な修得単位数」のとおり単位を修得しなければなりません。

(6) 留学生科目

留学生は「国語Ⅲ、文学概論」を「日本語Ⅰ、日本語Ⅱ」、「地理学概論、地域文化論」を「日本事情Ⅰ、日本事情Ⅱ」に替えて単位修得することができます。但し、それ以外の科目は通常カリキュラムに沿って単位修得することになります。

(7) 中学校までの授業との違い

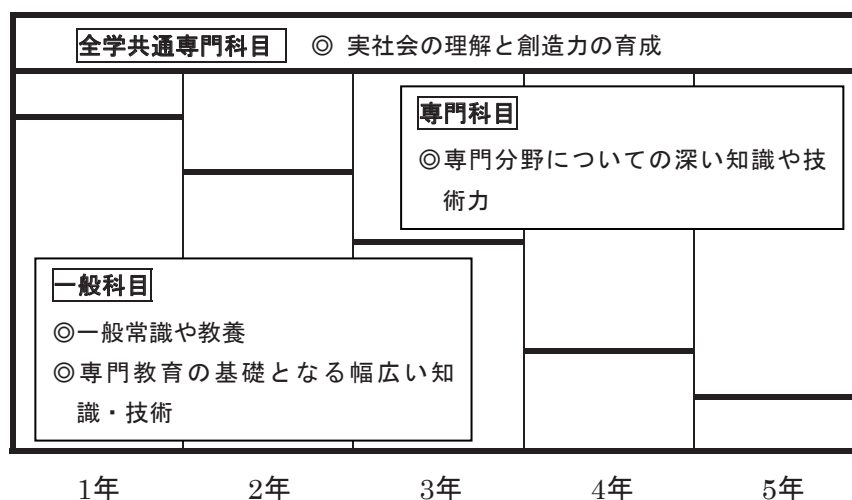
① 授業時間

中学校の授業と高専の授業において、大きく異なる点は90分間で授業が行われることです。90分間もの集中力を持続するのは大変かもしれませんが、特に実験・実習科目や演習科目ではその内容を理解するためにそれだけの時間が必要となってくるので、がんばって取り組んでください。

日課表	時間
S H R	8:30～8:40
休憩	8:40～8:50
1 時限	8:50～10:20
休憩	10:20～10:30
2 時限	10:30～12:00
昼休み	12:00～13:00
3 時限	13:00～14:30
休憩	14:30～14:40
4 時限	14:40～16:10
休憩	16:10～16:20
予備・補講時限	16:20～17:50

② 「くさび型」のカリキュラム

高専のカリキュラムの特徴は、**低学年では一般科目が多く、高学年になるほど専門科目が増えていくいわゆる「くさび型」**になっていることです。一般科目や全学共通専門科目などの基礎科目を踏まえた上で高度な専門科目を学ぶ仕組みになっています。



③ 実験・実習科目

カリキュラムのもう一つの大きな特徴は、**実験・実習科目が高校や大学に比べ、とても多い**ことです。実践的な技術者になるためには、講義で学んだことを実験で確かめたり、実際に設計したり製作してみることが欠かせません。これらの科目は、身につけた知識を実際に手や体を動かして具体化していく作業ですから、ものづくりの面白さを実感できるでしょう。

3 試験

本校での試験制度は下記のとおりで、成績評価に大きく関わるとともに、日頃の学習の成果を試す機会でもあります。次の事項に注意してそれぞれの試験に臨むように心がけましょう。

この他にも、授業中に行われる小テストなどがありますので、シラバスをよく読んで、それぞれの科目で行われる試験の種類を確認しておきましょう。

(1) 定期試験と中間試験

定期試験は、前学期末に行う**前学期期末試験**、後学期末に行う**後学期期末試験**があります。また、科目によっては**中間試験**を行うこともあります。シラバスには、実施される試験や試験範囲が掲載されていますので、前もって確認することができます。

前学期中間試験	...	6月	前学期期末試験	...	8月
後学期中間試験	...	11月	後学期期末試験	...	2月

(2) 試験の欠席

正当な理由なく試験を欠席してはいけません。正当な理由なく欠席した場合、その科目の評価が下がることもあります。

なお、試験当日、体調を崩してしまった場合、校内あるいは寮内では、まず担任に連絡して保健室に行き、看護師に相談してください。

また、登校することができない場合も必ず担任に連絡し、その理由等を伝えてください。

(3) 追試験（定期試験・中間試験を受験できなかった者が対象）

公認欠席や病気等、やむを得ない理由により**定期試験・中間試験を受験できなかった学生に行われる試験**です。**追試験の点数は、定期試験・中間試験に準じます**。追試験を受けようとする者は、科目担当教員と相談の上、すみやかに「**追試験受験願**」（用紙は学生課教務係にあります。）に必要事項を記入して、担任及び科目担当教員の確認（印）を受け、**公認欠席願**と併せて教務係に提出してください。病気等により試験を欠席した場合は、病院で診察したことが分かる**証明書（診断書、処方箋等）の添付が必要です**。

(4) 再試験（定期試験・中間試験の点数が 60 点未満の者が対象）

定期試験・中間試験の**点数が 60 点未満**の学生に対して行われる試験です。再試験の点数が 60 点以上の場合、**定期試験・中間試験で 60 点を取ったとみなします**。寝坊や故意に欠席した場合、不正行為により 0 点になった場合は再試験を受験することはできません。再試験を受けようとする者は、科目担当教員と相談し、指定される日に試験を受けてください。

なお、科目によっては再試験を行わないこともあります。

(5) 追認試験（前学年までに履修した授業科目の評価点が、60 点未満の者が対象）

未修得科目（前学年までに履修し評価点が 60 点未満の科目）を持ちながら進級した場合に、再度単位修得の機会を与えるために行う試験です。

追認試験は仮進級後に年 2 期の受験機会があります。第 1 期は 5～9 月、第 2 期は 10～1 月に受験できます。

追認試験を受けようとする者は、科目担当教員と相談の上、すみやかに「**追認試験受験願**」（用紙は学生課教務係にあります。）に必要事項を記入して、担任及び科目担当教員の確認（印）を受

け、教務係に提出してください。

(6) 試験に取り組む姿勢

試験期間は定期試験と中間試験を合わせて**年に4回**あり、1回の期間は2日～1週間程度です。科目によっては試験期間中に試験を行わず授業時間内に行う場合もありますが、試験科目が多いので、一夜漬けでなんとか乗り切ろうなどと考えず、**前もって計画を立てて準備することが必要**です。

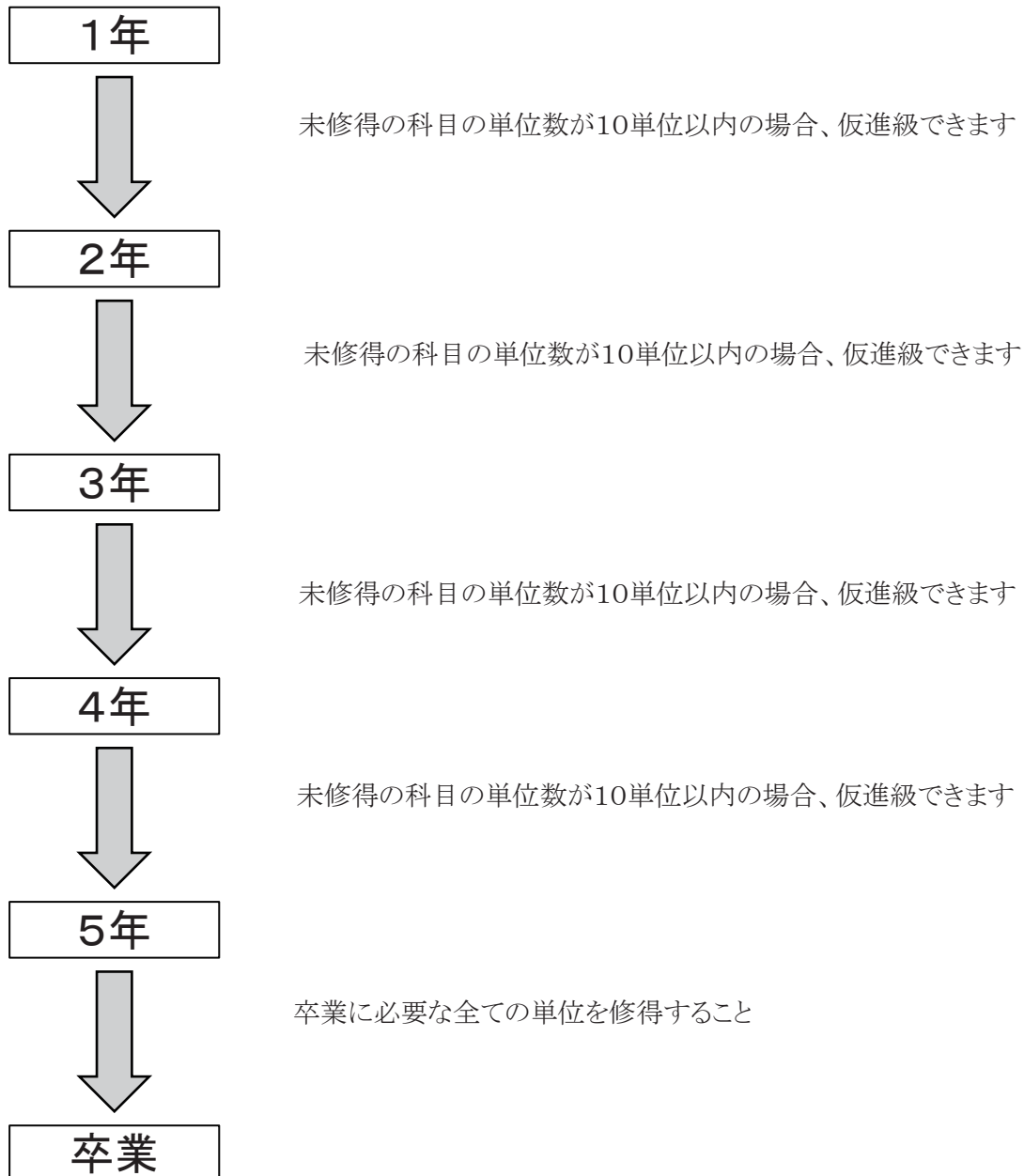
また、試験期間が長いので、体調を整えておくことも重要です。

試験とは別にレポートを課す科目では、提出期限が試験期間の時期と重なる場合がよくあります。

いずれにしても、日常の学習をしっかりと行い、レポートなどは早めに終わらせるよう計画的に取り組むことが大切です。

なお、受験に際しての注意事項などは、試験前にメール等で通知されます。また、試験期間中に不正行為を行った者は、試験期間中の全科目の成績が全て0点となります。このため進級が非常に難しい状況になります。不正行為は、絶対にしないでください。日々の学習と目標を持った勉学が大切です。

進級要件について



未履修

欠課時数が1/3を超えた科目は未履修となります。未履修の科目は追認試験を受験できません。必修科目や修得単位を満たさない選択科目が未履修となった場合はただちに原級留置となります。

仮進級

修得すべき単位を残したまま進級要件を満たして進級することを仮進級といいます。未修得の科目は進級後に追認試験によって単位を修得しなければいけません。

追認試験

追認試験は仮進級後に年2期受験できます。第1期は5～9月、第2期は10～1月に受験できます。